

事業実施主体一覧表

番号	市町村名	実施団体名	事業概要	参加者数 (講師・ スタッフ含)	備考
事業区分:A 普及啓発活動支援事業					
1	香美市	情報交流館ネットワーク	森林や自然に関わる団体や個人、また情報交流館の加盟団体が出展や展示、ワークショップ等を行い、日頃の活動をPRするとともに、参加者に森林の大切さや楽しさを感じてもらい、森に親しみ、自然環境や命を大切にすることを目的として実施した。 当日は、森林や木材等に関連した出展・展示・ワークショップを行ったほか、森林センターの自然を活用した自然体験、地元特産品の販売、森の音楽会を行った。	1,120	
2	佐川町	高知県シェアリングネイチャー協会	子どもたちを対象に、ネイチャーゲーム並びに木使い活動を通して、豊かな自然の恵みや自然の発見・不思議、地域文化について学ぶ機会を提供した。これらの体験を通じて、子どもが本来持つ感性を伸ばし、「気づき」「理解」「行動」へとつながる「生きる力」を醸成するきっかけづくりを行った。	274	
3	高知市	南喜ヶ峰森林公園ネイチャーゲームの会	子どもたちを対象に、ネイチャーゲーム並びに木使い活動を通して、豊かな自然の恵みや自然の発見・不思議、地域文化について学ぶ機会を提供した。これらの体験を通じて、子どもが本来持つ感性を伸ばし、「気づき」「理解」「行動」へとつながる「生きる力」を醸成するきっかけづくりを行った。	81	
4	高知市	アジロ山の自然と環境を守る会	豊かな森の中で子どもや市民が安心して自然体験ができるよう、ボランティアの支援を受けながら、草刈りや暗くなった森の除間伐、遊歩道のロープの張り替えなどの整備作業を行った。これにより、森の中を安心して散策し、自然の素晴らしさを体感するとともに、感性を豊かにすることを目的として実施した。 「森のようちえん&自然体験」では、森を散策しながら樹木を観察し、自然の素晴らしさを知り体感することで、子どもたちの五感を育み、森を守ることの大切さを学ぶ機会を提供した。 1回目は、樹木の成長や落葉樹と常緑樹の違いなどを学び、茂った森の木を自分で切る体験を通して、明るくなった森を体感するとともに、森の整備作業の大切さを知るノコギリ体験を行った。 2回目は、火に触れる機会の少ない子どもたちに火の大切さを知ってもらうため、焼き芋体験を実施した。参加者全員で焼き芋の準備をして山に入り、森の落ち葉などに触れながら自然の魅力を体感した。 両日とも午後にはクラフトづくりを行い、自然を満喫する体験を提供した。	72	
5	四万十市	幡多山もりフェス実行委員会	幡多山もりフェスのイベント会場で、林業機械の乗車体験、山の〇×クイズ、移住者と林業大学在校生とのトークセッション、山仕事紹介冊子配布、ヒノキの子供椅子製作、副産物であるヒノキのかんなくずを使ったサシェづくりやダイブ滑り台、のこぎり体験、コースターづくり、端材を使った自由制作等のWSを実施。 実際に木材に触れることで、感性豊かに木の良さを感じ、山に興味を持ってもらう。山の仕事や、森林環境税及び森林環境譲与税を使った補助制度などを幡多地区の森林組合が発信していくことにより森林、林業を身近に感じてもらう、木材産業の活性化のきっかけを作っていく。	1,129	
6	津野町	船戸活性化委員会「四万十川源流点」	四万十川源流域の豊かな自然環境の中を地元ガイドと共にウォーキングすることにより、里山の文化と保全活動を理解していただく。 事前に散策コースの準備(古道、きんま道の復元整備)を行い、当日はウォーキング(満天の星本社駐車場から四万十川源流点までの往復)、薪割り体験を実施した。	44	
7	香美市	株式会社ラフディップ	日ノ御子河川公園キャンプ場は香美市の美しい自然を体験できる場として、年間を通して県内外から多くの人々が訪れます。その清流と香北の自然を楽しみ、感謝するイベントを行い、多くの人に香美市の魅力と森林(自然)の魅力を感じてもらうことを目的とする。 【ひのみこアウトドアフェス】 香美市香北町の自然を活かした、アクティビティとマルシェのイベント。 【アクティビティ・体験】 ボルダリング、SUP、パックラフト、スラッグライン、ブッシュクラフト、マウンテンバイク、ロープクライミング、コーヒードリップ体験、テントサウナ体験 【今回の目玉イベント】 佐川おもちゃ美術館(木のおもちゃ、ワークショップ)、竹のブランコ、竹のジャングルジム、木製のおもちゃや竹の遊具を設営して、子どもたちに自然物に触れて遊ぶ体験を提供することで、身近な自然の活用法や自然を大切に思う心を育ててもらうことを目的に実施した。	377	
8	香美市	土佐塩の道保存会	「土佐塩の道」は、香美市～香南市の森林の中を通るかつての産業道である。時代とともに消えた道を約20年前に地元の有志(元保存会)がウォーキング道として再生し、現在はイベント等で地域振興のフィールドとして活用されている。年々認知度も上がり、イベントの参加者も増加しているが、古道を維持している保存会が高齢化、沿線集落は衰退の一途をたどっている。「塩の道」を守ることは、沿線地域の環境、暮らし、文化を未来に繋げる伏線として、体制構築のための勉強会と整備体験を下記の通り実施した。 ① 塩の道の歴史、土佐塩の道保存会の活動、当該地域の森林環境について学ぶ。 ② 塩の道のコース上で、堆積した枝葉や土砂を清掃する作業を体験する。 ③ 昼食でジビエ料理を食べ、山林における獣害の現状、課題について考える。 ④ 自衛隊による訓練を兼ねた塩の道の活動支援、塩の道の今後の展望を知る。	55	
9	四万十町	公益社団法人生態系トラスト協会	県の鳥、四万十町の鳥に指定されているヤイロチョウについて学び子どもたちが交流を深めるイベントを開催した。 8月16日は窪川駅発着の四万十ヤイロチョウの森へバスツアーを実施。 ヤイロチョウの森のウォーキングトレイルを散策しながら、講師から植物や野鳥について学び、自然観察を楽しんだ。 8月17日は窪川四万十会館で、絵画・工作教室、パネル展、学習会やクイズ、ヤイロチョウの歌などのイベントを実施。鳥類・植物・土壌動物などを楽しく学び、夏休みの自由研究にもなるよう専門家がサポートをした。	65	
10	香南市	一般社団法人香南市観光協会	香南市夜須町羽尾を通る土佐塩の道と大釜荘・長谷寺周辺の豊かな自然環境を舞台に、海から山へと続くロケーションを知り体験していただくことを目的として実施するもの。参加者と地域住民との交流を通じて地域振興や活性化を図るとともに、香南市の特産品や観光拠点であるヤ・シィパーク、大釜荘、長谷寺のPRIにつなげる。 昨年に続き、ヤ・シィパークを拠点に夜須町羽尾を通る土佐塩の道を活用したトレイルランニングレースを開催した。	392	

番号	市町村名	実施団体名	事業概要	参加者数 (講師・ スタッフ含)	備考
11	高知市	高知県森林インストラクター会	子供から高齢者までの幅広い年齢層が、森林の機能、生態を学習できる機会を提供することにより、森林の重要性について理解を深めることを目的としてツアーを開催した。室戸岬周辺は、温暖な気候に恵まれていることから亜熱帯植生をはじめ、特異な植生が多く見られる地域である。また、晩秋に見頃を迎える花も多いことから、この時期の森林散策が最適である。さらに室戸岬周辺の金剛頂寺には、国内でも希少な「ヤッコソウ」が分布しており、11月下旬頃に見ごろを迎えることから11月23日(祝)の開催とした。室戸市観光協会の専属ガイド4名により最御崎寺駐車場から室戸岬灯台周辺の樹木観察を行った後、室戸岬亜熱帯植物群落の観察を実施しアコウやシオギク、クワズイモなど約50種類の植物を観察した。また、室戸ジオパークについても解説を受けながら見学した。午後は金剛頂寺の境内周辺に分布するヤッコソウを中心に照葉樹林帯の植生を観察した。なお、観察場所については事前に下見を行い、植物の観察リスト&解説資料を作成し、当日配布することで充実した観察会にすることができた。	29	
12	いの町	Washi+	高知の野山の植物の魅力を体験するイベントとして実施した。参加者は植物からエキスを抽出してドリンクを作ったり、抽出色素で土佐和紙に絵を描くワークショップを行った。楮を原料とした土佐和紙での作品作りや専門家による解説を通じ、植物の多様な利用法や自然の魅力を学び体験した。	72	
13	高知市	一般社団法人高知県山林協会	街の人に森林や自然に興味を持ってもらうため、森林や木に関する体験コーナー、繁藤災害や防災に関するコーナー等を、地元、関係団体、ボランティア団体等に設置してもらい、来園者に体験してもらった。	506	
14	高知市	一般社団法人高知県山林協会	自然に触れ、その大切さや保全について関心を高めてもらうことを目的に、6km、リレー、キッズの3コースを甬喜ヶ峰森林公園内に設け、それぞれのコースを走ることで自然を楽しんでもらった。	135	
15	大月町	大月町備長炭生産組合	製炭体験、ウバメガシの植栽、ウォーキングやドングリ拾い、苗木づくりをすることにより、町内外の方に自然に親んでもらい、山林や地域産業の理解を進めるとともに、地域内外の交流を促進する。	45	
16	香美市	にろうのべいす環境改善推進協議会	香美市香北町葎生野の山、山裾の田畑、古民家を土中環境によってつながる一体のものとして、「にろうのべいす」と称し、地域の未来世代のために再生する道筋をつくり手渡すことを長期目的として、里山環境改善ワークショップを実施した。本ワークショップは、高知工科大学古民家サークルワペールの学生や地域内外の参加者と共に行い、山から受ける恩恵について学び、子どもから大人まで誰でも参加できる山のお手入れ体験を通して「結」の作業を体感し、新たな発見や行動のきっかけを得ることを目的とする。NPO法人地球守および乗松造園代表を講師に迎え、古民家の庭の手入れ、池づくり、道筋・谷筋の整備、倒木処理、石積み、植樹、丸太橋掛け、浸透対策、マウンド作りなどを行った。また、国土交通省OBIによる座学を交え、防災や自然再生の政策、山・田畑・住まいの環境のつながりについても学んだ。	57	
17	大月町	一般財団法人大月町ふるさと振興公社	道の駅大月の公園内にある大月町政40周年記念植樹の桜がテングス病に感染していることを受け、周辺への感染拡大防止と今後の健全な樹木管理を目的として、当該樹木の剪定作業を実施した。作業は安全に配慮して行い、地域住民等のボランティアを募集し、枝の運搬などの作業補助体験を実施した。あわせて、作業後には「こうち山の日推進事業」に関する説明会を行い、森林保全や樹木管理の重要性について理解を深めるとともに、参加者同士の交流の機会を創出した。	24	
18	四万十町	公益財団法人四万十川財団	①森林で過ごす気持ち良さを体験し、森に親しむ人の裾野を広げることを目的に、まずは、森で食べたり、飲んだり、おしゃべりしたり、楽しく過ごした。その後、チェアリングで森に関する読書やスケッチを楽しむ、最後に苔テラリウムでそれぞれの「理想の森」を作った。 ②川側から見た森づくりを考える機会にするため、四万十川流域に点在する「川の達人」や「川に関わる人達」に集まっていたが、カードゲーム「moritomirai(モリトミライ)」を行い、森林に関する「あるある」の課題を疑似体験し、解決に向けてみんなで考えた。ゲームを通して得た気づきや学びを発表してもらい、その成果をグラフィックレコードとして残した。 ③作業道に集まる雨水を分散させる事で、森林の水源涵養機能を利用して伏流水・地下水を増やすことを目的とし、「水切り」を設置する作業を行った。	51	
19	いの町	高知県青年団協議会	県内の青年層や大学生を対象に、竹林整備を通じて森・山や環境への関心を高め、主体的に地域に関わるきっかけを創出することを目的として、高知市および土佐市の2か所で実施。持続可能な森づくりや林業の実践に関する座学と、竹の伐採・搬出や竹炭づくりといった実践を組み合わせを行い、自伐林業家の考えや取り組みに触れる機会を提供した。これにより、参加者が将来的に各地域で竹林整備に取り組む基盤づくりを図った。	41	
20	四万十町	公益社団法人生態系トラスト協会	近年、溪流に生息するアメゴなどの魚類やムカシトンボなどの昆虫類が激減しており、その原因の一つとして、溪流周辺に植林されたスギやヒノキによって太陽光が地表まで届きにくくなり、光合成が阻害されていることが指摘されている。そこで、溪流周辺の植生や景観に配慮したビオトープを整備するとともに観察会を実施した。まず、溪流周辺の支障木を伐採し、太陽光が地表に届くよう環境整備を行うとともに、歩道や木橋を整備して安全に自然観察ができる環境を整えた。次に、アメゴ池から流出する排水を活用し、天然石で囲んだ水深約30cmの池を作った。また、ヤマガラなどの野鳥が利用できる巣箱を設置し、生き物の生息環境の向上を図った。整備した歩道を歩きながら観察会を行い、今後どのようなビオトープにしていけるのが良いか参加者と共に考えた。	24	

事業区分:B 植樹活動支援事業					
1	安芸市	林業女子会@高知	中土佐町の「more treesの森」で皆伐後の森林再生と環境保全を目的に、植樹活動を実施した。前日に地帯えを行い、当日は講師による造林や森林環境保全の講話、植樹方法の説明後、グループに分かれてヒノキ160本の植樹を行い、植栽木の食害防止の保護具も設置した。地域交流を深めながら、伐って植え、次世代へ森をつなぐ意識を共有する活動となった。	40	

番号	市町村名	実施団体名	事業概要	参加者数 (講師・ スタッフ含)	備考
事業区分:C「緑の少年団」活動支援事業					
1	須崎市	東川内子ども会緑の少年団	東川内の子どもたちが自然とふれあい、集団活動を通して生きる力や郷土愛を育むことを目的に緑の少年団を結成し、植物と水、人の手から生まれる土佐和紙の歴史や製法を学び和紙のお面づくりを体験した。また、木材についての学習やクリスマスツリーづくりを行い、ものづくりの楽しさや木の温かみを感じながら地域交流を深める活動を実施した。	50	子ども参加者数 のべ27名
2	四万十町	米奥小学校緑の少年団	地元の自然の豊かさを知り、自然と共生する方法を学びながら郷土愛を育むことを目的に、児童・保護者・地域住民が参加して学校林を活用した体験活動を実施した。学校林の散策や巣箱かけ、野鳥の巣の観察、木の伐採見学、丸太の皮はぎ体験、苗木のスクールステイ、河原の清掃活動などを行い、自然の営みや山が人の手によって守られていることを学ぶとともに、楽しさや木の温かみを感じながら自然への理解と地域交流を深めた。	45	子ども参加者数 15名
3	南国市	長岡小学校緑の少年団	校区の用水路や水田、本校「いこいの庭」(ビオトープを含む)での観察や手入れ活動を通して、児童が地域の自然環境を大切にする態度を育み、環境教育の場を創出する。また、緑化活動を通して、学校の景観を向上させ児童や地域の人に樹木や花の美しさを楽しんでもらうことで、学校や地域をより魅力的な場所にする。ビオトープの改修によりコガタノゲンゴロウやミズカマキリ、ヌマエビ、メダカなどの生き物がより過ごしやすい環境づくりができた。土壌改良や花の植え付けを実施することで、生き物への関心や感謝の気持ちを深めた。活動成果はオンライン集会で全校児童に発表した。	8	子ども参加者数 5名
4	南国市	久礼田小緑の少年団	自然との触れ合いや五感を使った体験を通して子どもたちの感性を育て、集団活動での協力や粘り強さを養うことを目的とし、ネイチャーゲームや高知県産の木を使った椅子づくり(どうぞのいす)体験を行った。木のぬくもりや自然の大切さを実感し、森林の現状や生き物のつながりを学ぶことで、自然環境への理解を深めた。	20	子ども参加者数 15名
5	四万十町	東又小学校緑の少年団	当校ではビオトープを活用した学習を実施しており、環境と生き物のつながり等について体験的に学んでいる。今回の活動では、「自然共生サイト」として認定されている四万十市トンボ自然公園および学習施設を見学し、トンボをはじめとする水辺の生き物や自然環境、生態系についての理解を深めるとともに、自然を守ることの大切さを学んだ。	84	子ども参加者数 71名
合計				4,840	

- (注) 1 事業区分A～C それぞれまとめて記載してください。必要に応じて、用紙を分けてください。
2 番号は、別紙4の番号と一致させてください。
3 「市町村名」欄については、実施団体の主たる事務局等が所在する市町村名を記入してください。
4 必要に応じて、増行、増項等を行ってください。